

景況レポート

(4月分・情報連絡員 80名)

県内景況は低水準で推移

～自動車販売はエコカー補助金復活で好調～

【概況】4月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが13.8%(前月調査12.5%)、「悪化」が40.0%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-26.2となり、前月調査と比較して3.7ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-15.6で前月調査(-15.7)と比較して0.1ポイント上回った。また、非製造業全体は-33.4で前月調査(-27.1)と比較して6.3ポイント下回った。

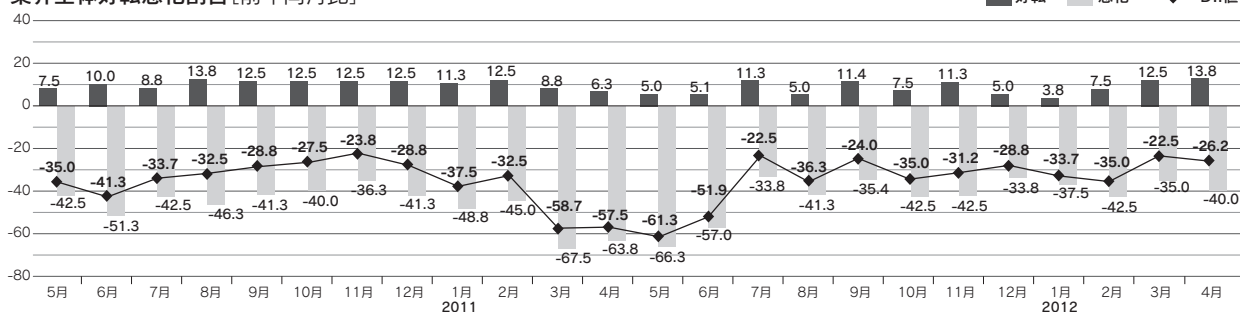
震災直後の前年同月に比べるとよくなっているが、上旬に発生した暴風の影響や低温等がマイナスの要因となった。また、年度初めであるため、官公庁の工事発注が少なかったことも悪化要因となっている。一方、自動車販売はエコカー補助金を背景に好調を維持している。(回答数：80名 回答率：100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業						
非製造業						

【凡例】
 快晴 30以上
 曇れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 10未満
 雨 △30超 △30以下
 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

菓子製造	新入学等の行事も多く、お菓子の動きは見られるが、単価が安く抑えられているため、売上の増加にはつながっていない。
麺類製造	4月上旬の低温のため、冬物商品と夏物商品の切り替えがうまくいかず商品の動きが悪かった。
一般製材	昨年は仮設住宅向け用材や資材不足で相場も上昇したが、今年は外材の安値に引きずられ、荷動き・価格ともに低調のまま推移している。
印刷	県の電子入札に関しては、50万円以上の物件について4月より最低制限価格制度が適用になったが、発注物件は50万円以下が多い状況である。民需については依然厳しい価格競争が続いている。
鉄鋼	4月上旬の強風による屋根・外壁等の被害があり、その改修工事で多少の稼働が見られたものの、新規物件はほとんどない状態である。
青果卸	市場外流通の影響が深刻になってきており、売上は前年同月比95.1%であった。なお、青果部門は水産物部門と併せて4月1日より秋田市公設地方卸売市場となっている。
自動車販売	4月の新車販売台数は、登録自動車1,947台(前年同月比166.4%)、軽自動車2,266台(同204.9%)で、合計4,213台(同185.1%)であった。前月と比較すると伸び率は鈍化したか、全体では185.1%と高水準で推移しており、エコカー補助金の復活が、販売の後押しとなったと考えられる。
石油販売	ガソリン1ℓ当たり157円で前月比6円引き上げ、軽油1ℓ当たり136円で前月比5円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,804円と前月比51円の引き上げとなった。販売量は低迷状態が続いているが、仕切価格が下落傾向にあるので、採算的には一服模様である。
商店街	全体として震災前の状況に戻り、家電や酒類販売も震災前の売上げとなっている。「身の回り品」については、今年の冬は雪も多く寒かったため、例年より売り上げが減少したが、4月以降の業況は順調になってきている。(秋田市)
旅行	4月～6月の受注は順調だったが、4月分が延期になるなど思わぬ展開となってきた。明らかな原因はわからないが、自然災害などが影響していると思われる。22年度比では国内・海外とも90%である。5～6月については今のところ例年と比べて大きな変化はない。
トラック	荷動きは昨年の震災直後と比較すると好転したが、やや持ち直しといったところ。軽油価格の高騰と高速道路の無料化の終了により、収益が悪化している。